

This number

2021年度のクマ事情



撮影：伊藤 哲治

★毎年度のニュースレター第1号で恒例の、日本全国のクマに関わる情報を整理してお伝える「クマ事情特集」です。一昨年度の2020年度は、一部の都道府県では捕獲数や出沒数が2年連続で多い傾向がありました。また、6月の札幌市の市街地への出沒による人身事故の発生など、アーバンベア問題がより一層大きな社会問題になった年でした。**2021年度**、令和3年目のクマ達はどんな様子だったのでしょうか。2019、2020年度と比較すれば、捕獲数や出沒数は少なかった地域が多かったものの、いずれも近年は増加傾向にあります。人身被害に遭われた方の人数も特に北海道で顕著に増えた年でした。詳細は、地区からの報告をご覧ください。

全国の状況・・・P5～7 環境省が発表している全国のクマ類の捕獲、出沒、人身事故の情報（右側QRコード、最終確認2022年5月20日）や農林水産省が発表する農業被害の状況について、近年のトレンドを整理しました。



文責：JBNクマ保護管理推進委員長・小坂井千夏（農研機構）

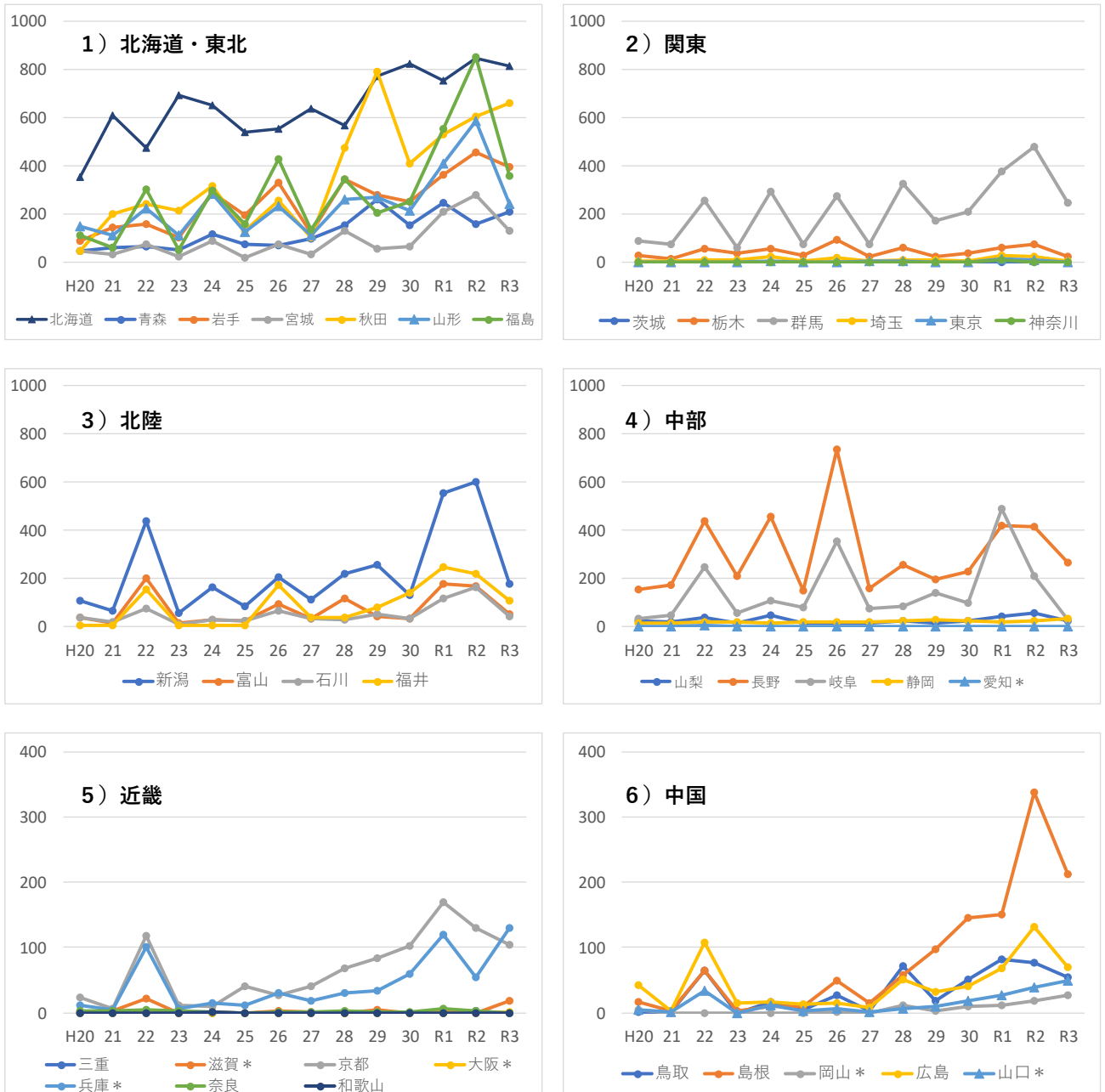


図1 平成20/2008～令和3/2021年度のクマ類の捕獲数(頭)

- 環境省webサイト（2022年5月6日付）の情報より。令和3/2021年度は2022年3月時点の暫定値。
- 捕獲数は許可捕獲数（有害鳥獣捕獲と数の調整捕獲で、捕獲後に放獣された頭数も含めた合計値）
- 2021年度の捕獲数が「過去5年間の平均値×1.4」より多い都道府県名に*印を付けた（この基準は「ツキノワグマの大量出沒に関する調査報告書（自然環境研究センター2005）」と同一）

過去5年間に比べて、2021年度の捕獲数が多かったのは「愛知・滋賀・大阪・兵庫・岡山・山口」でした。

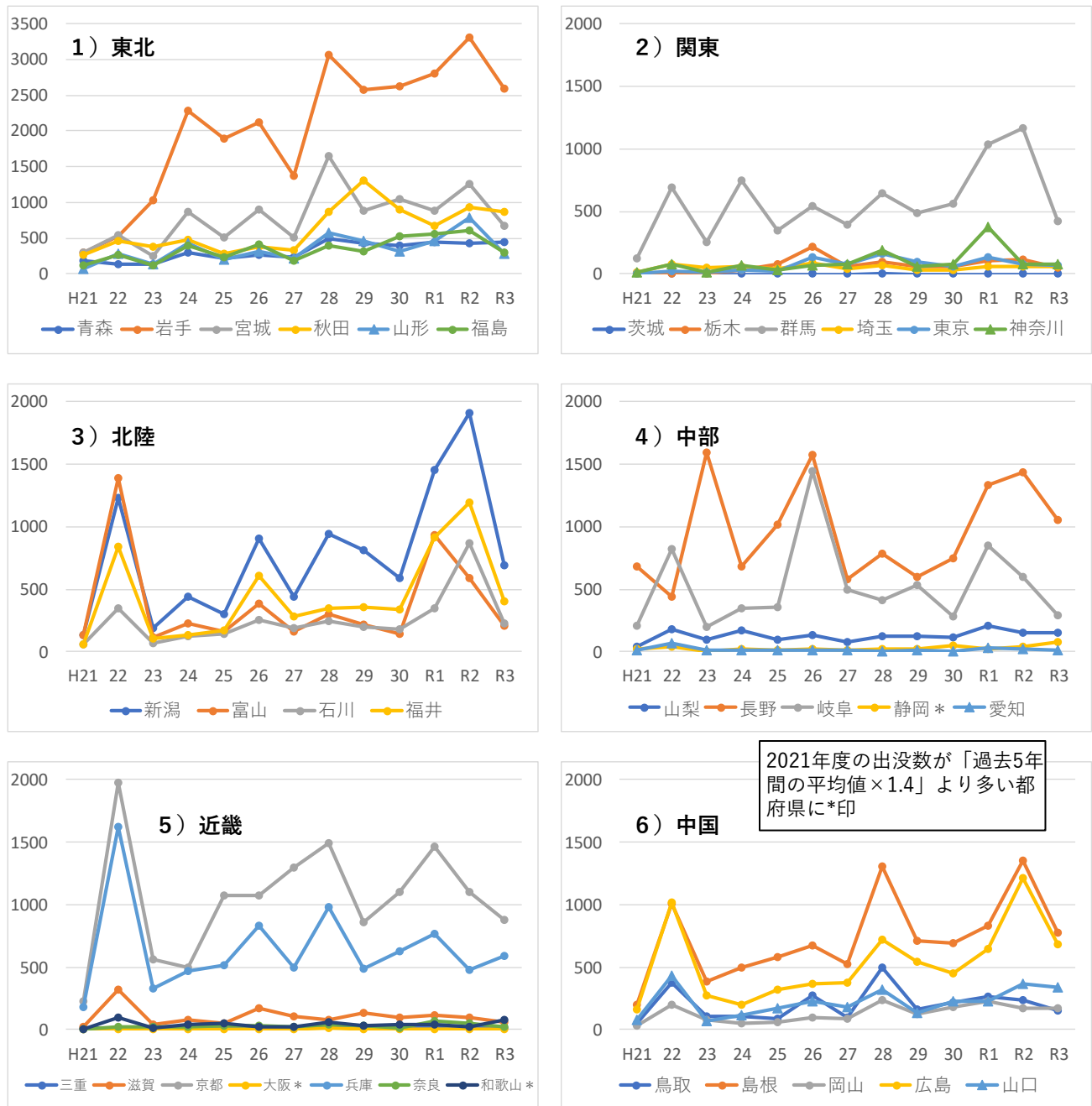
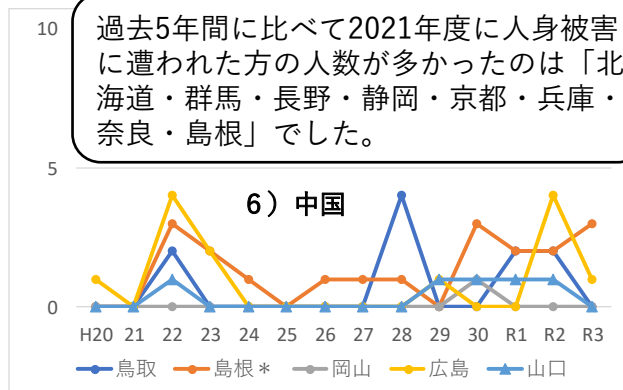
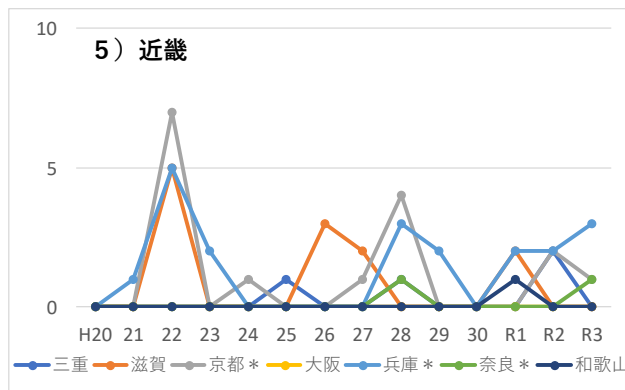
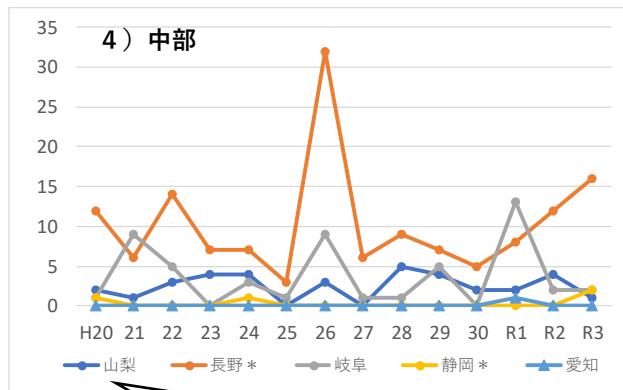
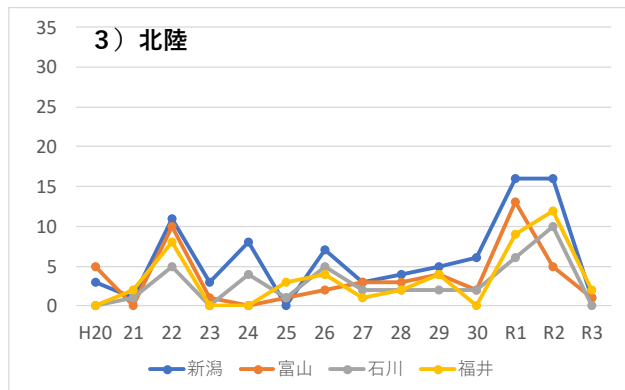
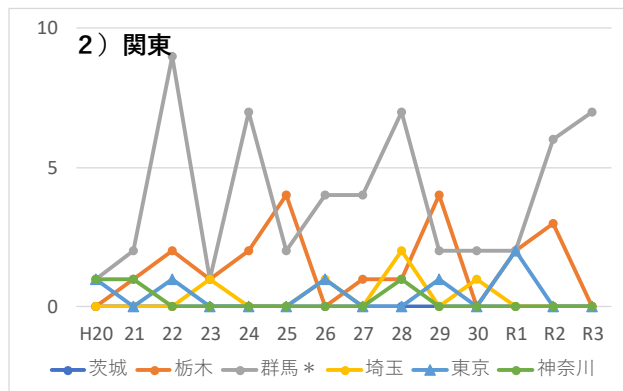
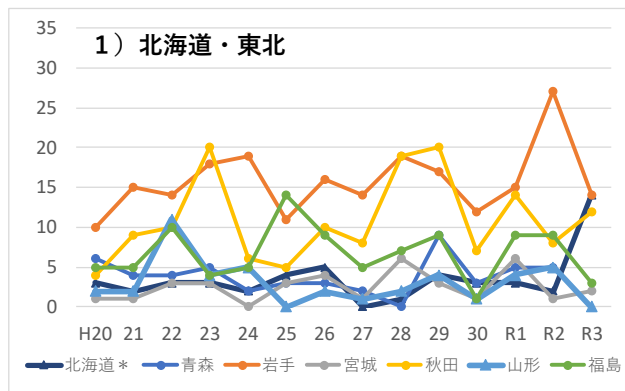


図2 平成21/2009～令和3/2021年度のツキノワグマの**出没情報数**

- 環境省webサイト（2022年5月6日付）より。
- 都道府県毎に異なる方法で集計（警察への通報件数、市町村からの情報等）。
- 長野県のデータについて。上記の環境省発表の情報ではH28年度までの値は「里地と山地」での目撃数、H29年度以降は「里地のみ」での目撃数となっている。本グラフはH28年度以前も「里地の目撃数」を、長野県のwebサイト（下部QRコード）から引用して使用した。
- 北海道は平成28/2016年度以降の出没数の公表がない。



過去5年間に比べて2021年度の出没情報数が多かったのは「静岡・大阪・和歌山」のみでした。これまで捕獲や目撃の少ないこれらの地域での今後の動向に注意が必要です。



過去5年間に比べて2021年度に人身被害に遭われた方の人数が多かったのは「北海道・群馬・長野・静岡・京都・兵庫・奈良・島根」でした。

図3 平成20/2008～令和3/2021年度のクマ類による人身被害（人数）

・ 環境省webサイト（2022年5月6日付）より。

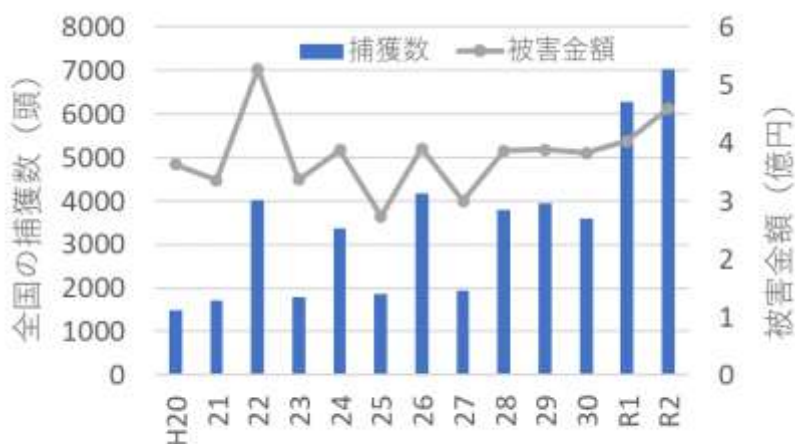


図4 平成20/2008～令和2/2020年度のクマ類による農作物被害額と捕獲数との関係

・ 捕獲数は図1と同じデータ、農作物被害額は農林水産省発表のデータ（下部QRコード）を使用した。いずれもヒグマとツキノワグマの合計の値。



各地区の状況 P 8～18 各地区の代表地区委員からR3/2021年度の状況についてご報告いただきました。ご協力いただいた地区委員、関係機関の皆様、大変有難うございます。

北海道 P 8

東北 P 9

関東 P10

北陸 P12

中部 P14

近畿 P16

中国 P17

四国 P18

九州からの報告事項はありませんでした

①**出沒**の傾向、②**人身事故**の発生状況、③**捕獲数**の傾向、④**農作物被害**の発生状況
⑤**堅果類の結実状況**、⑥**出沒対策**として良い対策事例等、
⑦**その他**特筆すべき状況、JBNとして取り組むべきと考えること

をまとめていただきました。一部地区では市街地での出沒・事故の概況を「目立ってあった・ある程度あった・特に目立っていない・情報ない/不明」から選択していただきました。

北海道地区

釣賀 一二三（北海道立総合研究機構）

知床半島地域、上川振興局管内（旭川市周辺・占冠村）、札幌市周辺の状況について、各地区委員から報告をいただいた。全道の状況とともに報告する。

① **出沒** 各地とも市街地や市街地周辺への出沒が継続して発生しており、発生件数は増加傾向である。知床半島の羅臼町では倉庫侵入などが相次ぎ保管していた干し魚などに被害が発生する一方で、占冠村など他の地域では家庭菜園を含め人為的な食物等に被害が見られない出沒が増加している。2021年度は大都市において出沒件数が大幅に増加し、6～8月には札幌市東区の住宅街（4名が負傷）や旭川市中心部を流れる美瑛川、忠別川等の河川敷にヒグマが侵入する事例が発生している。

② **人身事故** 統計が残るS37/1962年以降最多の8件が発生し12名が被害を受けた（死亡者4名）。狩猟者が襲われた事例が2件、山菜採り、ハイキング、山林作業中にそれぞれ1件、生息地に隣接する農地で農作業中に発生したものが2件で、これにはエゾシカくくりワナに錯誤捕獲された個体によるものが含まれる。また1件は、札幌市東区の住宅地に侵入し、興奮状態が高まった個体によって4名が負傷した事例であった。

③ **捕獲** 各地区委員が関係する地域からは突出して多いといった報告はなかったが、道全体としては近年高い数値を維持しており（過去数年は年間800-900頭の捕獲数）、現時点（2022年3月25日時点）において850頭を超える捕獲報告があがっている。

④ **農作物等の被害** 年次変動はあるものの、全道の多くの地域で主要被害作物であるデントコーンのほか、これまで被害がなかった作物にも被害が確認されるなど農業被害が拡大しており、それに伴う捕獲数も増加している。被害の多くは、電気柵などの防除が為されていない農地で発生している。それに対して知床半島地域では、問題個体の捕獲と電気柵設置による防除が進み、農業被害が減少傾向にある。

⑤ **堅果の結実状況** 渡島半島地域のブナは不作。ミズナラは、一部の地域を除いて不作～並作。依然として調査地点が不足しており、十分に地域の状況を反映しているとはいえないが、各地区委員からの報告でも同様の状況。

⑥ **出沒対策** ▶知床半島地域や札幌市では、地域住民と行政の連携や企業CSR活動などによって、草刈りや放棄果樹の伐採活動が行なわれた。見通しの改善や誘引物の管理を目的としたこれらの活動は継続して実施されており、地域に定着してきている。▶旭川市では、2021年夏の市街地河川敷侵入をきっかけに市の関係機関と道内専門家による対策協議会が設置された。また、市街地侵入に至る前の市街地周辺地域における出沒状況把握の重要性が指摘されており、周辺自治体の連携と情報共有を推進することを目的として、1市6町

の行政連絡会議が発足した。▶占冠村では、平時の情報蓄積が、危険な個体の出現など非常時の素早い認知と対応につながると考えており、人の生活圏周辺におけるヒグマの活動について精力的に情報収集を行っている。また、管理活動が必要な個体には、村の職員である「野生鳥獣専門員」が積極的に接近し、個体情報の収集と威圧（追い払いや必要に応じた捕獲）に努めている。村役場がポストを設置している数少ない事例であり、現状と課題の整理が進み道内各地に同様のシステムが広まることが期待される。



⑧ その他 同一個体による犬の食害や放牧牛被害が数年前から継続して発生しており、いずれも加害個体は捕獲に至っていない。これらに加え、市街地侵入事例など重大な事案が相次いで発生していることから、現在の猟友会による捕獲体制から一歩進んだ体制が必要になっている。地域に鳥獣管理の専門家（クマ以外の鳥獣の管理も担当）を配置するとともに、専門的な訓練を受けた捕獲技術者からなる捕獲チームを編成することが重要である。一方、市街地侵入の際には、対応時にヒグマを見つけても発砲は不可となるケースが多発しており、警察組織との連携を強める必要性が急務となっている。

東北地区

鶴野-小野寺レイナ（慶應義塾大学先端生命科学研究所所員兼鶴岡市農政課鳥獣被害対策推進員）・近藤麻実（秋田県生活環境部自然保護課）・宇野壮春（東北野生動物保護管理センター）・山内貴義（岩手大学）

全体的な傾向として南東北は一昨年2020年度は大量出沒年であり、秋の出沒や捕獲数、市街地出沒等が非常に多かったが、2021年度の秋は落ち着いた出沒傾向であった。

① 出沒 ▶青森：2020年度（423件）と変わらず、ある程度（433件）あった。▶岩手：2020年度が多かった（3316件）こともあり、2021年度（2588件）は特に目立って出沒が多い印象はなかった。9/2早朝、奥州市水沢台町の国道343号沿いにあるコインランドリーで、クマに窓ガラスが割られる被害が起きた。▶宮城：出沒件数は2020年度の1297件から半減666件。特に秋の通報が激減した（10月：2020年度の1/5 程度）。一方で県北での出沒は増加傾向にあり、特に平地での出沒がこの要因となっている。▶秋田：ここ数年と比べて突出して多くないが、H28/2016年の人身死亡事故以降、通報数が増えた結果として「出沒数」が跳ね上がったまま高い水準で推移している。▶山形：春～夏にある程度あったが、秋の目撃件数は激減し（10月：2020年度の1/10 程度）、過去5年間の中で最も少なかった。春先～夏にかけては例年通り広く動いているという印象であった。▶福島：特に目立たなかった（2020年度603件から2021年度298件）。秋の目撃件数は激減（10月：2020年度の1/10 程度）。過去5年間の中では最も

少なかった。コイン精米機破壊、鳩小屋を襲うという通報もあった。

② 人身事故 ▶青森：1件1名で死亡事故が発生した。10/2早朝、平川市碓ヶ関地区で散歩中の70代男性が顔を激しく損傷し死亡。当該事故発生後に、青森県は4月から発令していたツキノワグマ注意報をツキノワグマ警報に切り替えた。▶岩手：2020年度27件中16件が人里で起きたが、2021年度は14件中9件が人里での被害で、家の中に侵入され襲われたケースもあった。7月以降は里での事故が続いた。岩手県webサイトに詳細情報あり（下部QRコード）。▶宮城：2件2名。7/2 8:30 色麻町小栗山地内 山林。9/19 6:00 栗原市花山字本沢萩ノ原地内山林、親子グマによる人身事故。▶秋田：12名である程度あり、クりに関係する事故が目立った（⑤結実状況も参照）。詳細（日時、場所、被害者、加害個体、事故の状況、考察、今後の事故防止に向けて）は秋田県webサイトに掲載（下部QRコード）。▶山形：0件。▶福島：3名。5/23会津美里町、山菜採りをしていた30代男性が顔面等を咬まれ重傷。6/3檜枝岐村宇燧ヶ岳、溪流釣りで沢沿いに移動中前方から襲われ軽傷。

岩手県web
サイト→



秋田県web
サイト→



7/15南会津郡下郷町大字戸赤字平、キノコ（乳茸）採りのため2名で入山し、下山中2頭のクマと遭遇し1頭に襲撃され軽傷。

③ 捕獲 ▶青森・岩手：2020年度ほどではないがある程度あった。▶宮城：2020度（280頭）と比較すると128頭と激減したが、錯誤捕獲割合が高い。▶秋田：2020年度は許可捕獲607頭、狩猟52頭であったのが、2021年度は許可捕獲657頭、狩猟31頭。▶山形・福島：例年と比較して特に目立って多くはなかった。

④ 農作物等の被害 ▶青森：リンゴ、モモ、トウモロコシ、スイカ、スモモ、ナシの情報あり。▶岩手：リンゴの情報あり。▶宮城：特に目立ってないが、釣り堀、養魚場、リンゴでの被害報告あり。▶山形：春～夏にある程度あった。スイカ、トウモロコシ、メロンの受粉用のミツバチの箱を連続して荒らす被害あり。秋は特に目立たなかったが、リンゴなど。▶福島：トウモロコシの情報あり。

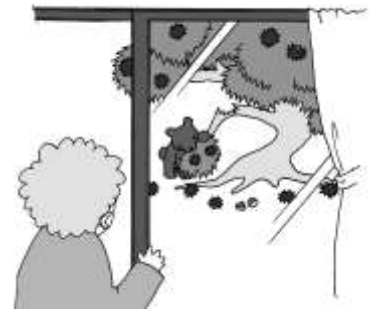
⑤ 堅果の結実状況 ▶青森・秋田・岩手：凶作。▶宮城：ブナ凶作、ナラ類並作。▶秋田：凶作（クリは豊作）。定点調査の地点では凶作だが、県全域で全滅という印象ではない。一方でクリの実りが非常に良く、人の生活圏周辺のクリの木に例年以上にクマが集中した印象であった。結果として、9～10月に人の生活圏周辺でクリ拾い中の人身事故や、クリの木の近くでの人身事故が相次いで発生した。▶山形：ブナ凶作、ナラ類は並～豊作。▶福島：ブナは凶作、ナラ類は豊作。

⑥ 出沒対策 ▶青森：県のwebサイトで「ツキノワグマを誘引する生ごみや収穫しない野菜・果実の農作物は野外に放置せず適切に処理してください」との記載。▶岩手：廃棄果樹や生ごみの管理、市街地出沒対策として川沿いの藪の仮払いを推奨している。▶秋田：「緩衝帯整備事業」集落周辺のある程度まとまった林分を伐採し、見通しをよくすることでクマの出沒を抑制する事業。「誘引木伐採事業」集落周辺や内部にある木（林分ではなく単木）のうちクリ、クルミ、クワなどのクマを誘引しうる木を伐採し、クマの出沒を抑制する事業。「集落点検」集落の住民と一緒

に出沒箇所を確認しながら住民にできる対策を考えるなど、集落での対策をサポートする事業。

「普及（出前講座）」一般住民や農業関係者等を対象に、出沒を防ぐための知識を普及。「普及（電気柵研修）」農業関係者を指導する立場にある行政職員を対象に、電気柵の仕組みや張り方に関する研修を実施。▶山形：市町村にもよるが、誘引木や果樹残渣の管理、藪の仮払いを推奨。その他要請があれば出前講座、集落点検など。▶福島：誘引物の除去、隠れ場所を減らす、正しく電気柵で囲う、追い上げを行う。

⑦ その他 2021年度末がツキノワグマ管理計画の改定年だった県が多い。2020年度の大量出沒を経験した翌年であったためか、東北地区内のすべての県がクマの管理を強化する方向へとシフトした。▶秋田：集落内にツキノワグマが出沒した場合を想定した対応訓練を実施している。▶山形：イノシシの増加に伴い錯誤捕獲が増えてきている。



後藤優介（茨城県自然博物館）

以下の関東地区委員、JBN会員から情報提供をいただいた。栃木県：丸山哲也（栃木県庁）、群馬県：姉崎智子（群馬県立自然史博物館）、埼玉県：石田健、東京都：山崎晃司（東京農業大学）、神奈川県：長縄今日子（丹沢ツキノワグマ研究会）、羽太博樹（神奈川県自然環境保全センター）

① 出沒 ▶栃木：堅果類の結実は比較的良好であり、出沒数、捕獲数ともに比較的小さい傾向であった。▶群馬：ある程度あった。▶埼玉：ある程度あった。県全体の52件の目撃情報のうち、秩父市の24件については市のwebサイトに日時、場所などの詳細が掲載されている。報告にあるのは実際の目撃の一部であり、登山者や観光客のよ

うな方からの報告が多くを占めている。2020年度同様、秩父市街に近い場所での目撃が続いているが、2020年度に比べるとやや静かだった印象。横瀬町1件、小鹿野町4件、皆野町5件、東秩父村1件、ときがわ町1件、飯能市3件などの目撃情報もHPに掲載されている。飯能市では数年前からカモシカが常時観察されるようになっており、今後、ツキノワグマについては注意が必要。2022/1/31の、小鹿野町における秩父市（街）に近い場所での目撃は少し異色の時期であり、特に暖冬だったわけではないため気がかり。▶東京：130件越えであった2019年から減っているが、2021年度は約70件と高止まり。▶神奈川：特に目立っていない。全体的には、2020年度に続き出没件数が少なく平穏な年だった。山北町では、これまで確認されていなかった市街地での出没や痕跡が確認された。

② 人身事故 ▶栃木：目撃件数は2020年度の半分以下に減少するとともに、人身被害も発生しなかった。▶群馬：市街地出没は特に目立っていない（事故状況は県のHPで公開されている）。7件発生しており、うち6件は狩猟、釣り、登山、測量作業中など山中で発生した事故である。1件は人里で発生している。▶埼玉・東京・神奈川：なし。

③ 捕獲 ▶栃木：有害捕獲数（速報値）は24頭で、2020年度の92頭に比べ大きく減少していた。大量捕獲年は捕獲のピークが夏から秋まで継続する傾向があるが、2021年度のピークは8月であり、通常捕獲年の傾向となっていた。▶群馬：許可捕獲等（2022年2月末現在）248頭で、2020年度の521頭に比べ大きく減少した。▶埼玉：有害捕獲数は6頭で、2020年度の26頭から大きく減少した。▶東京：有害捕獲数は、2019年度14頭、2020年度12頭と比較して大幅に減少し、7月（オス）と8月（メス）に各1頭であった。捕獲数の減少は過去2年間にこれまでにない頭数を捕獲したためかも知れないが、実証的なデータはない。▶神奈川：錯誤捕獲1件のみ。松田町でイノシシ用くくり罠に錯誤捕獲されたが、県により山中に放獣された。

④ 農作物等の被害 ▶群馬：2021年度分は未公表。▶神奈川：カキへの被害のほか、ナツメにクマ棚が確認された。

⑤ 堅果の結実状況 ▶栃木：比較的良好。▶群馬：全体としては並作。ブナ・ミズナラは不作であったがコナラは並作。その他、クリは不作だがミズキが豊作。▶埼玉：ブナ、イヌブナは凶作。ミズナラは秩父市街周辺、横瀬町界限、長瀬の博物館周辺での観察では限定的に豊作だが、シードトラップによる調査（石田私信）では並作の下程度になっている木もあった。概して少なめ。クマ棚は2020年度は多かったが2021年度はほとんど見られなかった。コナラは不作あるいは凶作だったと思われる。▶東京：定量的データはないが、ミズナラ、コナラとも並作から豊作であった。林床にたくさん落下しており、2022年に入ってもまだ残っている。ブナは不明。▶神奈川：ブナ、ミズナラが凶作だったもののコナラは並作。ヤマボウシなどのその他の実なりも良かった。ナラ枯れはコナラ、ミズナラはじめ、シイ・カシ類にも及んでおり、今後の影響が懸念される。

⑥ 出没対策 ▶群馬：2021年度に改正された群馬県ツキノワグマ適正管理計画に、河川整備、緩衝対の設置、藪の刈り払い、ツキノワグマによる樹皮剥ぎは集中的な樹幹まきにより被害が減少すること、などが記載された。▶東京：都で一部の個体の奥山放獣体制を整備している。▶神奈川：かながわ鳥獣被害対策支援センターの指導のもと、藪の刈り払いなどの環境整備やカキ被害があった場所では電気柵の設置などが行われている。

⑦ その他 ▶群馬：環境省のシカ、イノシシ捕獲強化推進にともない、くくりわなによるクマ錯誤捕獲が多く発生しているのが現状である。これまでの、餌資源が不足しているから人里近くに出没して捕獲されるのではなく、山地内で捕獲されている。錯誤が発生する場所等での、くくりわなの使用などは制限する（わな数、設置場所、使用季節など）等、抜本的な対策が必要と考える。野生鳥獣の被害対策は、誘引物除去、適切な防除対策の実施が基本であり、捕獲ではなく、適切な防除対策が継続的に実施できるよう、普及啓発にJBNとしても取り組むべき。▶埼玉：行政担当者への聞き取りでは、クマの錯誤捕獲はあることは認識しているが、今のところ多い印象はなく、特に問題になっていない。クマ剥ぎとその対策としての駆除についても、問題は認識していないとの

ことだが、各市町村の有害駆除の対象のなかに錯誤捕獲が混じっている可能性がある。東大秩父演習林では、親子グマのクマ剥ぎが撮影されており、引き続き被害は発生している。一時期に比べればクマ剥ぎによる枯れ木はそれほど目立たないが、今後の経過を観察中。

▶茨城：2021年度は捕獲や目撃などツキノワグマの確実な情報はなかった。近年、一度は県内から姿を消した大型哺乳類のニホンジカ、ニホンカモシカなどの目撃・撮影記録が増加していることから、ツキノワグマについても積極的な情報収集が必要。



白石俊明（富山県立山カルデラ砂防博物館）

以下の北陸地区委員、JBN会員の方に、情報収集にご協力をいただいた。新潟県：清水あゆみさん（(株)ういるこ）、石川県：有本勲さん（山立会）、野崎英吉さん、福井県：松村俊幸さん（福井県鳥獣保護巡視員）

① **出沒** 新潟、富山、石川、福井の4県とも平年（過去10年平均）の1/3程度からやや少なく、目立った市街地出沒の報告もなかった。いずれの県も10年ほど前から夏の出沒（6月が中心）が増加傾向にあり、特に新潟、福井が顕著で、石川や富山も年によっては目立つ（図5）。また、年間の出沒情報件数と人身被害者数に高い相関がみられる（図5）。堅果結実の影響で今後も大量出沒は生じるであろうことから、出沒が多い年でも事故を減らすために「クマ問題を我が事（自分事）と捉える」ための啓発活動の必要性を強く感じる。

② **人身事故** 4県とも市街地での人身被害は無く、石川県では0件であった。3県で発生した4件4名の内訳は狩猟関連2件、山菜採り1件、林道散歩中1件で、いずれも山中で日中に発生した。▶新潟：5月、山菜（タケノコ）採り、70代男性、両足負傷、体長約1.3mのクマ。▶富山：7月、林道を散歩中に成獣1頭・体長1mと遭遇、70代男性、藪から飛び出してきたクマの腹を蹴り飛ばして転倒、軽傷。▶福井：4月、狩猟者育成研修中、70代男性、藪から出てきたクマと遭遇、顔や頭に軽傷、狩猟歴50年のベテラン。12月、狩猟中、80代男性、猟

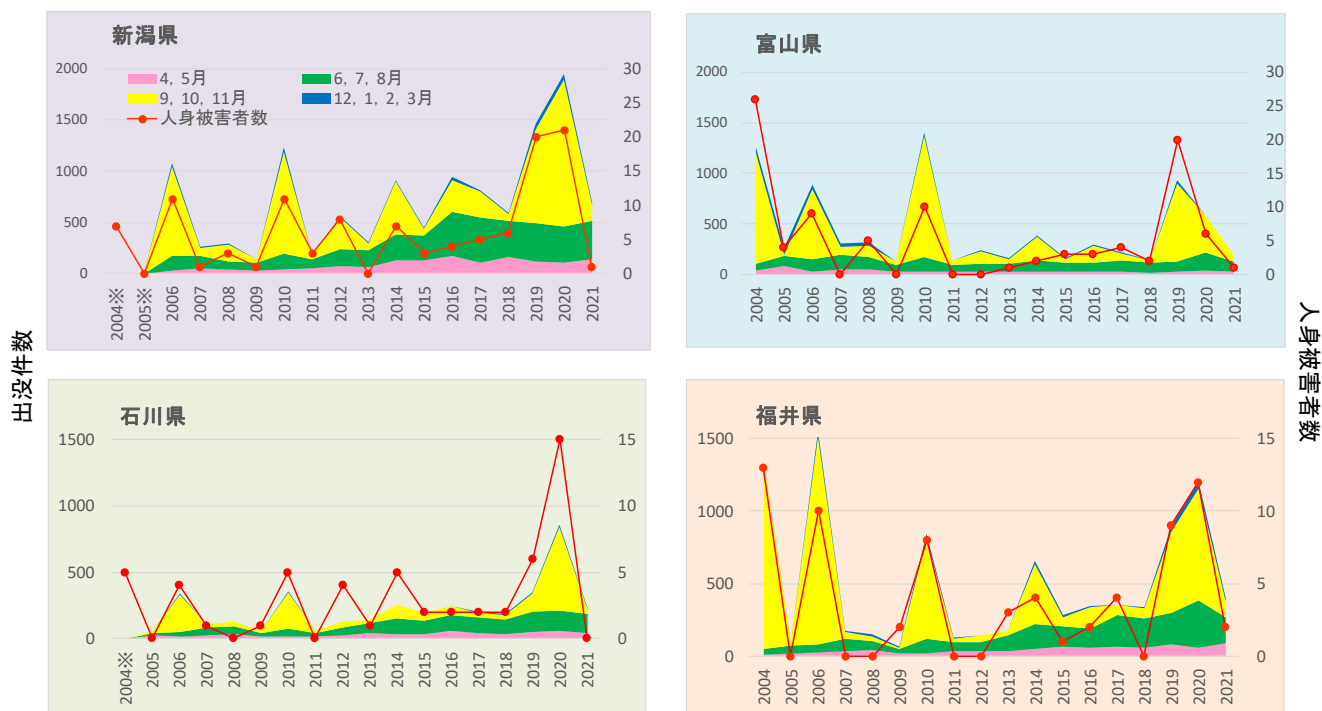


図5 北陸4県の出沒件数（季節別）と年間の人身被害者数

・ 石川県の出沒件数は目撃件数のみで痕跡情報を含まない。「※印」は出沒件数データがない年。

犬を助けようとして、出てきたクマに左ひじを引っかれ軽傷。

③ 捕獲 4県とも平年（2011～2020年の10年間の平均値）の約半数～やや多い。福井県では、シカ・イノシシ用のくくり罠などによるクマの錯誤捕獲が多数発生しており、錯誤捕獲防止のための情報収集や技術開発を課題としている。推定個体数の増加や人身被害の多発を受けて、各県で管理計画の改定が行われ、2022年度から捕獲上限数がそれぞれ以下のように引き上げられている。富山：154→175頭、石川：126→180頭・大量出沒時は250頭、福井：106→156頭。新潟は頭数を明示せず、「上限を推定生息数の12%以下、ただし15%とすることも可」。

④ 農作物等の被害 4県とも2021年度は情報不足。北陸地区では深刻な農作物被害は報告されておらず、被害額がゼロの年も多いことから、生活環境被害、人身被害や林業被害（クマ剥ぎ等）に比べて問題視されていない。一方、新潟県の中越地域では主力産業でもある高級錦鯉の養殖池における有害駆除や、クマによる自動給餌器の破壊が目立つようになっており、早期の防除対策導入が必要と考えられる。▶新潟：2021年度の被害金額320万円で、野菜＞果樹＞飼料作物＞イモ＞稲の順。▶富山：近年は無いが、あっても少ない。2019年度は被害金額94万円、ブドウ。▶石川：近年は無かったが、2020年度の被害額は676万円。

表1 北陸4県の堅果結実・出沒・事故の概況（2021年）

		新潟	富山	石川※2	福井
堅果結実※1	ブナ	×～△	○	◎◎	○
	(前年・2020年)	×～△	×	××	×
	(前々年・2019年)	×～△	×	×	×
	ミズナラ	×～△	△	◎	△
	(前年・2020年)	△～○	△	○	△
	(前々年・2019年)	△～○	×	×	×
出沒※2	コナラ	△～○	△	○	△
	(前年・2020年)	×～△	×～△	×	△
	(前々年・2019年)	×～△	×～△	○	△
事故	1～12月の件数	712件	130件	217件	409件
	(2011～2020平均)	(814件)	(328件)	(261件)	(450件)
	9～11月の件数・%	152件・21%	69件・53%	34件・16%	109件・27%
捕獲※3	(2011～2020平均)	(396件・38%)	(186件・44%)	(114件・32%)	(219件・36%)
	件数・人数	1件・1名	1件・1名	0件・0名	2件・2名
	(2011～2020平均)	(6.7件・7.7名)	(3.2件・4.1名)	(3.4件・3.9名)	(3.4件・3.5名)
捕獲※3	頭数	175頭	51頭	24頭	109頭
	(2011～2020平均)	(242頭)	(74頭)	(58頭)	(95頭)

※1 ◎豊作、○並作、△不作、×凶作 石川のみ「◎大豊作、××大凶作」

※2 石川県は目撃のみで痕跡等を含まない。

※3 年度計の許可捕獲数

▶福井：山際の限定された場所でカキ、クリ、ナシの被害報告あり。被害報告のない年もあり、被害面積は多い年で0.56ha（2009年）。

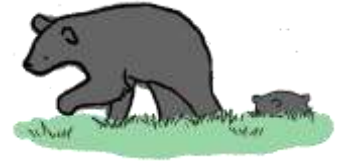
⑤ 堅果の結実状況 新潟県のみ指標上は昨年よりも悪かったものの、ほか3県はブナが並～大豊作、ミズナラも不～豊作と全般的に結実傾向が良い秋だった（表1）。▶新潟：奥山（ブナ・ミズナラ）は全般的に悪いものの、一部でブナが良好な場所が疎らにあった。人里（コナラ・クリ・オニグルミ）は不作～並作で、出沒への注意警戒が呼びかけられたが、秋の大量出沒は生じなかった。▶富山：ブナが3年ぶりに並作で、奥山・人里とも全般的に実りの良い秋だった。▶石川：ブナが大豊作で、ほか奥山・人里とも良好で3年ぶりに実りの良い秋だった。▶福井：大量出沒とならなかった年に結実の傾向が似ており、大量出沒の可能性は低いとされた。

⑥ 出沒対策 2019～2020年度の2年連続の大量出沒を受け、各県とも対策の強化、新制度や新しい手法の導入が進められている。▶新潟：所有者不明の果樹に対する電気柵の緊急設置（貸与）や、藪刈り払いの支援、技術者育成支援など。県による支援のほか、NPO制作の啓発用チラシ配布や、防災番組での「クマ遭遇時の防御姿勢」普及などが各市町村で実施されている。▶富山：クマ検出AIとトレイルカメラを組み合わせた「監視・通報システム」の実証試験（県内4市。うち2市が2022年度からの導入決定）。▶石川：クマ検出AIとトレイルカメラを組み合わせた「監視・通報システム」の導入（1市）。ドローン活用、刈り払いなど。▶福井：県による事業はクマの誘引樹木伐採のための補助新設、ツキノワグマ人身被害対策アドバイザーの設置。その他、センサーカメラを用いたカキ畑・ブナ林での出現状況把握。オンライン・オンサイト併用の獣害対策講習など。

⑦ その他 会員が出沒現場での対応や啓発活動をより多く、より深く行うためにスキルアップできる事業創出をJBNとして実施できると良い。例えば使用経験のない追払い道具（鳥獣追払煙火など）について、実際の使用を想定したノウハウを知る機会が欲しいと感じている。行政職員や警察向けの研修・住民や学校向けの勉強会等の依頼

が増えているが、クマの専門家やJBN会員が少ないうえ、依頼先が講師招聘の予算を持っていなかったりと苦慮するケースがある。この場合、無料のチラシを紹介するなどし、できる限り相手の意向に沿えるよう努力している。地球環境基金の支援を受けているアーバンベアプロジェクトでも、会員増加やスキルアップを目指し、北陸地区で

ワークショップを開催するなど、全国のJBN会員から応援をしていただき、ありがたく感じている。効果が出るにはまだ時間がかかりそうだが、普及の努力を続け、
軋轢減少・事故ゼロ
を実現したい。



中部 地区

玉谷宏夫（ピッキオ）

地区委員の浅倉美波さん（信州ツキノワグマ研究会）、橋本操さん（岐阜大学）、竹内翔さん（静岡県）、玉谷（ピッキオ）が各県の担当部署への聞き取りなどによって情報を収集しました。

全体としてみると中部地区は穏やかな一年だったといえる。特に秋の出没が少なかった。ただし、多くの場所で人間の利用エリアとクマの生息地が近接もしくは重複するようになってきており、今年度も里地で人身事故が発生した。すみ分けのための恒常的なとりくみが求められる。

① 出沒 ▶岐阜：市街地での出沒は特に目立たなかった。例年よりもクマの出沒が少なく、月別にみると6月にピークを迎えた後は減少し、秋も低い水準だった。堅果類が特に豊作だったわけでもなく、クマの出沒が少なかった理由は不明。飛騨、東濃、中濃では市街地で目撃されることがあったものの、これらの地域はクマの生息場所に近く、2021年度に限った傾向ではない。▶静岡：県下でのクマの出沒・目撃情報は例年ほとんどないが、2021年度は富士地域で5月に急増した（26件）。市街地での出沒・目撃情報もある程度多く、道路を逃げるクマの様子などが報道機関によって取り上げられた。7月には伊豆半島南西部で、推定3～5歳のオスグマが錯誤捕獲されたため放獣した。伊豆半島でクマが確認されたのは約100年ぶり。10月は南アルプス地域でも比較的多くの出沒・目撃情報が報告された（8件）。▶愛知：市街地での出沒は特に目立たなかった。▶長野：市街地での出沒はある程度あった。初夏における若いクマの出沒は例年通りみられた。里地での目撃件数は7月まで大量出沒年（2006、2010、2014年）並みに多かったが、その後減少した。管理ユニットごとにみても、秋に目撃件数のピークを迎えたユニットはなく、大量出沒の兆候はみられなかった。

② 人身事故 ▶岐阜：市街地での事故は特に目立たなかった。山林内で2件の事故が発生した。▶静岡：情報なし。▶愛知：情報なし。▶長野：市街地での事故はある程度あった。6月～1月までの間に16件16名の事故が発生し、2020年度に続いて二桁に達した。集落内での事故は2020年度の9件から減少したとはいえ3件発生した。

③ 捕獲 ▶岐阜：合計30頭が捕獲された。5月から捕獲が始まり、6、7月が最も多く、8、9月は減少した。8、9月に捕獲数が減少したのは、両月の目撃件数が少なかったことに関係していると思われる。県下における錯誤捕獲の件数は正確なデータが把握されていないものの、例年並みに発生していたものとみられる。▶静岡：南アルプス地域で林業被害防止を目的とした許可捕獲により29頭が捕獲された。個体群に絶滅のおそれがあるとされ、全面的に捕獲を自粛している富士地域では10頭がシカ用のくくりわなで錯誤捕獲された。いずれも麻酔をかけて放獣した。▶愛知：錯誤捕獲が2件発生し、いずれも放獣した。▶長野：捕殺数は個体数調整によるものが175頭、緊急捕獲が32頭の計266頭で、2019年度の338頭、2020年度の316頭より少なかった。59頭を学習放獣した。錯誤捕獲（放獣）は306件発生し、2019年度の317件、2020年度の362件に続いて高止まりしている。大量出沒年に限らず、ここ数年は高齢個体が恒常的に捕獲されるようになってきており、個体群が成長していることや奥山で捕獲されている可能性が考えられる。なお、長野県では狩猟が始まる11月15日を個体数管理の起点にしており、個体数調

整による狩猟への影響は基本的でない。

④ 農作物等の被害 ▶岐阜：特に目立つ農作物被害はなかった。▶静岡：特に目立って発生していないが、富士宮市で養鶏場のニワトリ全35羽をクマが捕食する事案が発生した。幸い、養鶏場の管理者や警察官等に被害はなく、箱わな等により被害防止を目的とした捕獲を緊急的に試みるも、加害個体の捕獲には至らなかった。▶愛知：7月に豊田市で鶏舎に侵入した跡が確認された。▶長野：農業被害は大量出沒年だった2006年をピークに減少傾向にある。一方で林業被害は2008年度以降減少してきたが、2015年度以降はやや増加傾向にある。2020年度の農林業被害額は約1億4400万円であり、その77%は南信州、北信地域での造林木の皮剥ぎ（クマ剥ぎ）被害によるものだった。2021年度は未集計ながら、急増・急減しているという印象はない。なお、鳥獣全体の農林業被害額に占めるクマの割合は20%程度である。

⑤ 堅果の結実状況 ▶岐阜：県全体ではブナ、ミズナラ、コナラともに並作。岐阜・西濃圏域では並作～豊作、中濃・東濃・飛騨圏域では凶作～並作だった。▶静岡：ブナ科樹木の豊凶調査は行っておらず実態は不明。ただし、コナラを中心とするナラ枯れ被害は県内全域で広がっている。▶愛知：地域によってばらつきがあるものの、ミズナラは並作、コナラは凶作と判定。▶長野：ブナ：大凶作～並作、ミズナラ：大凶作～豊作、コナラ：大凶作～大豊作で、樹種や地域によりばらつきが大きいものの、県内全体では一定程度の結実量が見込まれた。全県的なクマの大量出沒の可能性は低い、クマの行動範囲が広がる可能性があること、越冬中のクマの出産が一定程度見込まれることをホームページで発信した。また、集落沿いでクリ、クルミの着果が多い場所や、ナラ類の着果が少ない北信、長野、諏訪、上伊那地域では、クマとの出沒・遭遇に特に注意するように呼びかけた。

⑥ 出沒対策 ▶岐阜：2021年3月に県が発行した『岐阜県における「地域ぐるみ」でのクマ対策』に基づき、地区を選定してゾーニングモデルを作成している。モデルが作成できれば、県下の各地区に展開する予定。▶静岡：集落周辺の放置

果樹の回収。田畑や果樹園、養鱒場の周囲に電気柵を設置。▶長野：クマ対策員により、高頻度な出沒や人身事故発生時の現場検証、錯誤捕獲対応を行っている。2020年度にキャンプ場で人身事故が発生した上高地では、誘引物管理の徹底やササやぶの刈り払い、利用者へのレクチャーなどを改めて実施した。民間団体による試みとして、信州ツキノワグマ研究会による『こども版信州ツキノワグマハンドブック』の作成、ピッキオによるベアドッグ活用などが行われている。



「こども版信州ツキノワグマハンドブック」
(2022年3月発行、B5判16ページ)

※入手をご希望の方は、信州ツキノワグマ研究会（kumaken_shinshu@yahoo.co.jp）まで必要部数とともにお知らせください。折り返し、送付方法等をご連絡いたします。

⑦ その他 県を問わずクマの錯誤捕獲が発生しており、実態を把握するためのしくみや放獣に携わる人材の配置が求められている。同じ個体が何度もくりわなにかかるケースが増えており、クマの行動特性に着目した対策についての検討が必要との声もある。JBNでは錯誤捕獲ワーキンググループを中心にして情報を共有し、それぞれの立場でできることを考えていきたい。ところで、クマもコロナに感染するのでしょうか・・・



近畿 地区

中川恒祐（（株）野生動物保護管理事務所）

近畿地方の2021年度のクマの状況を、北部地域（兵庫県、京都府、滋賀県、大阪府）と南部地域（奈良県、和歌山県、三重県）に分けて報告します。

① **出沒** ▶北部：市街地での出沒は特に目立たなかった。出沒の少ない大阪府を除く各府県の出沒状況を、環境省発表の速報値をもとにグラフにまとめました（各府県12月まで、図6）。グラフでは2021年度と過去3年間（2018~2020）の各月の出沒数を示しています。滋賀県では例年と比べて通年を通して出沒が少なく、特に秋は出沒が非常に少なかったです。京都府では例年と比べて春から夏の出沒が少なく、秋の出沒が増加しました。兵庫県は春の出沒が昨年度と同程度あったのに対して、秋の出沒が増加しました。大阪府では6件の出沒がありました。

▶南部：環境省発表の速報値によると、1月末の時点で奈良県は19件、和歌山県は75件、三重県は11件の出沒が発生しています。和歌山県は2010年以来もっとも多い出沒となり、奈良県、三重県は例年より出沒は少なかったです。和歌山県では高野町の寺院にクマが居座るなどの市街地への出沒事例があります。なお、近畿南部のクマ（紀伊半島地域個体群）は環境省の定める「絶滅の恐れのある地域個体群」に指定されていることから、全体としては多くの出沒はありません。三重県、奈良県はこの10年で出沒が増加傾向にありましたが、上述の通り今年は出沒数が少なかったです。

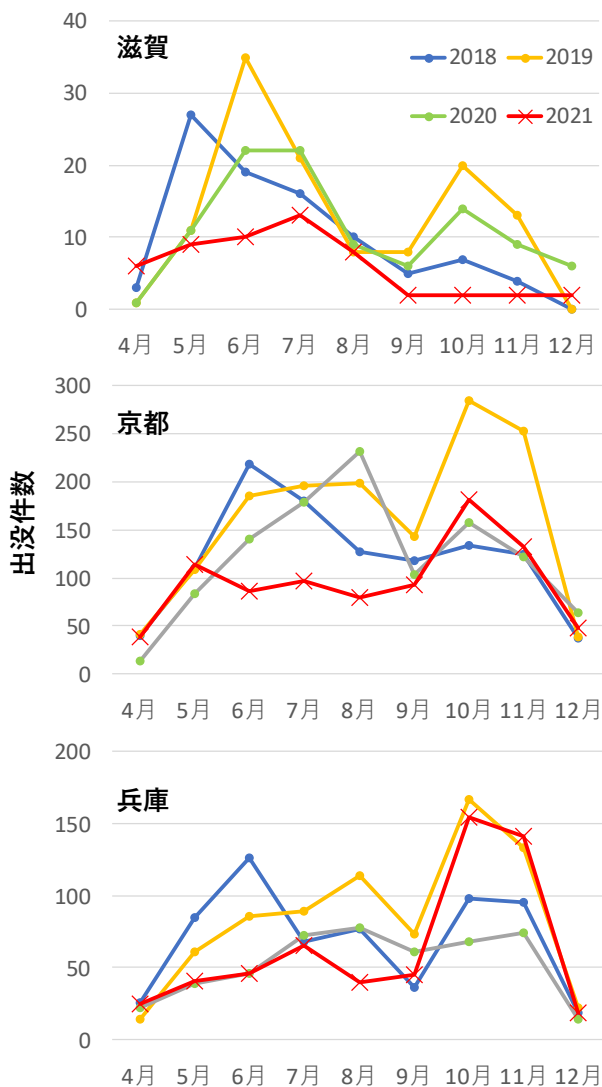


図6 近畿北部の月別出沒情報数

② **人身事故** ▶北部：市街地での事故は特に目立たなかった。京都で1件、兵庫で2件の人身事故が発生しました。京都の事故は集落内の自宅近くで発生しています。兵庫の事故はどちらも山中の出会い頭の事故でした。▶南部：奈良で1件の人身事故が発生しました。箱わなに錯誤捕獲された個体を放獣しようとした猟師が負傷しています。

③ **捕獲** ▶北部：兵庫、京都では平成29/2017年からゾーニング管理が実施されており、集落周辺での有害捕獲が増加しています。両府県の捕殺数は兵庫で53頭、京都で103頭となっており、出沒の多かった2019年度を除くと、過年度と同程度の捕殺数になります。滋賀、大阪ではそれぞれ1頭の捕殺がありました。兵庫では2021年度は推定生息数が基準値を下回ったため狩猟禁止、滋賀では例年通り狩猟は自粛、京都では推定生息数が基準値を上回ったため、19年ぶりに狩猟が解禁されました。▶南部：2021年度は捕獲は発生しませんでした（環境省発表）。

④ **農作物等の被害** ▶北部：京都、滋賀では人工林への剥皮被害（クマハギ）が毎年一定程度発生しています。クマハギへの対策として、テープ巻き防除が実施されています。兵庫、京都では例年同様に農作物被害としてカキ、ナシなどの果樹への被害が多く発生しました。

⑤ **堅果の結実状況** ▶北部：兵庫、京都、滋賀では豊凶調査が実施されています。兵庫ではブナが豊作、コナラが並下、ミズナラが凶作で3種全体では並上でした。京都ではミズナラ、コナラが並作、ブナが豊作でした。滋賀ではブナ、ミズナラ、コナラともに不作でした。（表2）

⑥ **出沒対策** ▶北部：クマを誘引する集落内の不要なカキやクリの木の伐採を行政として推奨しています。集落周りの動物が隠られる藪などを刈り払い、バッファゾーンを設置しています。

表2 近畿北部の堅果類の結実状況

		2017	2018	2019	2020	2021
兵庫県	ミズナラ	豊作	並上	凶作	並下	凶作
	コナラ	豊作	並下	並下	凶作	並下
	ブナ	並上	凶作	大凶作	大凶作	豊作
京都府	ミズナラ	並作	並作	凶作	並作	並作
	コナラ	並作	並作	凶作	凶作	並作
	ブナ	並作	凶作	凶作	凶作	豊作
滋賀県	ミズナラ	並作	不作	凶作	並作	不作
	コナラ	不作	不作	不作	不作	不作
	ブナ	凶作	不作	凶作	凶作	不作

す。また、果樹等の被害防止のため、電気柵などの対策が行われています。兵庫では轟音玉等によりクマの追払いを実施することもあります。兵庫県では、民間企業に委託した鳥獣対策サポーター事業を実施しており、市町村からの委託により獣種に限らない総合対策（実態把握、点検、指導など）を行っています。

⑦ **その他** 東中国地域個体群および近畿北部地域個体群西側を対象とした広域協議会が発足しており、各地域個体群の個体数の推定を実施しています。



澤田誠吾・石橋悠樹（島根県）

特に西中国地域の情報について報告します。

① **出沒** 市街地での出沒はある程度目立った。中山間地域の集落内への出沒（誘引物による出沒、うろつき）は十数件で、海浜公園（住宅密集地）等への出沒は2件ありました。2件とも出沒要因の調査を実施したところ、1件は公園内のクロキに無数の爪痕と周辺には糞もあり、クロキを食べるために出沒したと考えられました。他の1件の出沒要因は不明でしたが、いずれも本来クマが出沒するような場所ではありません。集落内、住宅密集地で出沒があれば、直ちに関係機関と連携して、注意喚起、パトロール、捕獲対応を実施しています。

② **人身事故** 市街地での事故は特に目立なかった。島根2件、広島1件。▶島根での事例1：2021/10/3 17:45頃、50歳代男性、トンネル付近の旧道でランニングをしていたところ、背後から

足音が聞こえ、振り向いたらクマが走ってきて襲われた。頭をかまれて両腕を引っかかれた。被害現場の検証、注意喚起のパトロール、現場検証を実施。▶島根での事例2：2021/10/23 6:22頃、70歳代男性・40歳代女性、10/22 18:45頃JR山陰線でクマと列車の接触事故が発生。クマが線路にいる可能性があるため列車を運休。翌日6:00からハンター2名、警察2名、JR職員2名、県職員2名で現場確認を行った。線路にはクマはいなかったが、現場にあったクマの糞を確認していたところ急に茂みからクマが出てきて、ハンター1名と県職員1名を襲った。ハンターは左足甲を咬まれ、県職員は左腿と左手首を咬まれたがいずれも軽傷。被害現場の検証、注意喚起のパトロール・看板設置、現場検証を実施。

③ **捕獲** 広島は70頭、山口は51頭、鳥取75頭、岡山28頭でしたが、島根では217頭の捕獲がありました。島根では4～8月は比較的に穏やかでしたが、9月以降に捕獲が増加し、10～11月には月の捕獲数が60頭を超えました（図7）。

④ **農作物等の被害** 島根では春～夏季は、養蜂蜜桐、ナシ、ビワ、秋季は広島、山口でもカキ、ブドウへの被害が多く発生しました。特に島根県西部でのカキの被害が深刻であり、捕獲数も増加しました。

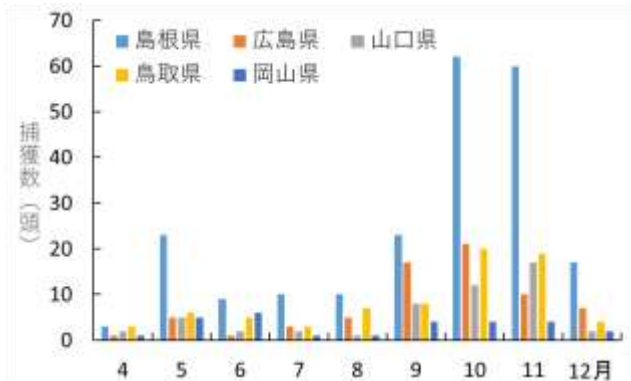


図7 中国地区の2021年度の捕獲数

⑤ **堅果の結実状況** ▶西中国地域での目視調査より。ブナ（島根のみで実施）島根東部豊作、西部凶作。ミズナラ凶作、コナラ豊作、クリ並作、クマノミズキ豊作。▶鳥取：ブナ大豊作、ミズナラ並作上、コナラ並作上、クリ並作上。▶岡山：ブナ並作、ミズナラ並作、コナラ並作。

⑥ **出沒対策** 島根県では鳥獣専門指導員が中心となって、民家庭先のカキ、養蜂蜜桐などへの電気柵の設置（指導）、カキの木へのトタン巻きを行っています。
西中国地域では、カキが強力な誘引物となっていますが、対策を実施すれば被害は防げます。しかし、集落にあるカキは数百本と多く、今後は面的な対策の実施が必要です。



山田孝樹
(四国自然史科学研究センター)

① 出沒 ② 人身被害 ③ 捕獲

いずれも、特に情報なし。

④ **農作物等への被害** 山間部（クマの生息域内）において、林業施業地に放置されたチェーンソーをクマが齧る被害があった。

⑤ **堅果の結実状況** ブナとミズナラの豊凶を目視調査により把握している。ブナは凶作、ミズナラについては並作～豊作であった。

⑥ **出沒対策** 後述の地球環境基金プロジェクトの一環で、養蜂被害防除活動として電気柵の設置を一部実施している。

⑦ その他

- JBNの四国プロジェクト（地球環境基金）を継続する形で、四国自然史科学研究センターによって地球環境基金助成によるプロジェクト（2021年度は3年間の2年目）を実施。プロジェクトでは引き続き、JBN及び日本自然保護協会と連携・協働して活動を実施している。
- 上記プロジェクトによって四国のツキノワグマの情報発信のHPを作成
<https://islandbearproject.org/>



HPトップ
ページの様
子

HPの
QRコード

